

洋画の日本語字幕に見るコミュニケーション法 II —最近の字幕批判をめぐって (注1)

内野泰子 (早稲田大学)

I.はじめに---映画ファンからの日本語字幕批判の現状

字幕翻訳者・清水俊二が「外国のスーパー字幕のことも知っているが、出来栄えは日本のスーパー字幕が一番すぐれている」(清水、1992)と自画自賛した洋画の日本語字幕だが、その「品質」に対しては疑問を投げかける声もある。これまでも評論家の立花隆や映画監督の Kubric などが背景知識の欠如による誤訳やスラングの不適切な訳し方などについて厳しい批判(内野、2001)を展開してきたが、この数年は、一般の映画ファンからも日本語字幕の問題点を指摘するコメントがインターネット上に多数寄せられるようになってきている。因みに、検索エンジン・サイト yahoo.co.jp で「字幕、誤訳」の2語をキーワードに検索してみると2,390件(2003年5月12日現在)ものヒットがあった。

これらのうち、戸田奈津子の字幕に関する批判が圧倒的に多く、同サイトで「字幕、誤訳、戸田奈津子」の3語をキーワードに検索すると659件がヒットした。特に、2002年春に公開された「ロード・オブ・ザ・リング」(原題“*The Lord of the Rings*”)の戸田字幕に対しては映画公開直後からネット上で批判の嵐が巻き起こった。この映画の原作は英国の J.R.R.Tolkien 作の長編物語で、日本でも「指輪物語」の邦題で20年以上前に翻訳・出版されて以来、熱心なファンが多数存在する。こうした原作ファンの多くが戸田字幕に不満を持ちインターネット上に「字幕改善連絡室」(注2)等いくつかの掲示板サイトを設け、さらには、実名で900余人が字幕の修正を配給会社・日本ヘラルドに申し入れるに至った。こうした一連の動きを受けて、同社は、その後リリースした同作品のビデオならびにDVD版で日本語字幕の4割を原作本の共同翻訳者・田中明子氏の協力のもとに修正した。

今回の「字幕改善」運動はインターネットが意見を同じくする人々を結集し動かすうえで果たす力を再認識する出来事としてマスメディアでも広く報道されたが(注3)、これまでネット上の掲示板やホームページ上に散在していた映画ファンたちの日本語字幕への不満がある程度系統立った形で集約された点は注目に値しよう。日本ヘラルドに対して修正が申し入れられた箇所は総計三百数十にもものぼり、「明らかな誤訳」から「字幕としての配慮に欠けるもの」までその問題の程度は様々であったが、それらを整理してみると、大体下記の(a)~(h)の8項目に分類することができよう。それぞれの項目について、典型的な問題字幕例と日本ヘラルドによるその修正字幕(DVD用)を列挙した。

(a) 字幕翻訳者が原作の本質や伏線を十分に理解していないために誤訳が生じた箇所

(オリジナル)Gandalf:“The ring is trying to get back to its master. It wants to be found.

(戸田字幕)「指輪は主人の元へ戻ろうと助けを求める」

(批判理由:この物語に登場する指輪は世界を積極的に支配し破滅に導くという重要なポイントが、「助けを求める」といった弱気な表現で分りにくくなっている)

- (ヘラルド修正字幕)「指輪は主人の元へ戻ろうと迎えを呼んでいる」
- (b) 原文の意味とは全くかけ離れた脚色されすぎた字幕が付されている箇所
(オリジナル)Frodo: “How far to the nearest crossing?”
(戸田字幕)「どうする?」
(批判理由:一番近い橋を探している場面なのに、「どうする?」では受け手が混乱する)
(ヘラルド修正字幕)「一番近い橋は?」
- (c) 敬語や言葉遣いに一貫性がなく、人間関係や登場人物の性格が分かりにくい箇所
(オリジナル) In-keeper: “Good evening, little masters. If you’re seeking accommodations, we’ve got some nice cozy, hobbit-sized rooms available.”
(戸田字幕)「チッコイお客だな うちに泊まるならホビットサイズの部屋がある」
(批判理由: 宿屋の主人がお客に対して言っている箇所であるのに、失礼な言葉遣いとなっており、宿屋の主人が無礼で粗野な人間のような誤った印象を与える)
(ヘラルド修正字幕)「小さい旦那方 お泊りならホビットサイズの部屋があります」
- (d) 時制や仮定法など文法的解釈に誤りがあり、物語の重要部分を混乱させている箇所
(オリジナル)Aragon: “I would have gone with you to the end. Into the very fires of Mordor.”
(戸田字幕)「できれば君と運命をともに モンドールの火口までと」
(批判理由: 仮定法で現実には不可能なことを言っている箇所だが、戸田字幕では実際に「行ける」かのような印象を与える)
(ヘラルド修正字幕)「できればモンドールの火口まで行きたかった」
- (e) 「～を」、「～に」などで語尾をとめる中止法や中止法疑問文の不必要な多用
(オリジナル) Bilbo: “You want it for yourself?”
(戸田字幕) 「自分のものに?」
(批判理由: 前後関係から見ても「自分のものに」どうしたいのか瞬時に判断し難い)
(ヘラルド修正字幕) 「欲しいのか?」
- (f) 時代背景にそぐわない言葉遣いが見られる箇所。
(オリジナル) Pippin: “Ooh, that was close.”
(戸田字幕) 「ヤバかった」
(批判理由: 映画の設定と異なり、あまりにも現代的な言葉遣いで、違和感がある)
(ヘラルド修正なし)
- (g) 原作に出てくる有名台詞が不適切に訳されている箇所
(オリジナル)Bibo: “I know I don’t look it, but I’m beginning to feel it in my heart. I feel thin, sort of stretched, like butter, scraped over too much bread.”
(戸田字幕) 「年には見えなくとも 私は老いを感じるんです 気力が薄れていく
それを無理やり引き伸ばしているんです」
(批判理由: 老いを食べ物にたとえたところが Bibo らしいため原作の邦訳でも愛読者には御馴染みの台詞だが、そのニュアンスが全く表現されていない)
(ヘラルド修正字幕) 「年には見えなくとも 私は老いを感じるんです 自分が薄っぺらにな
っていくような」
- (h) 通常は使われないような語尾あるいは登場人物のキャラクターに不適当な語尾
(オリジナル) Pippin: “Anyway, you need people of intelligence on this sort of mission quest

thing.”

(戸田字幕)頭のいい奴がついてゆかにゃ だって大切な旅だろ？

(批判理由: ピピンは青年であるが、若者らしくない不自然な語尾になっている)

(ヘラルド修正なし)

「ロード・オブ・ザ・リング」以外の作品の戸田字幕については、今のところ、映画ファンの中でこれほど一作品に集中した批判運動は起こってはいないが、他作品の戸田字幕についても上記のような諸点をめぐる批判が散見される。加えて、戸田字幕に対しては、次のような問題点もネット上で繰り返し指摘されている。

- 専門知識や一般常識の欠如 [例 It's Miller Time.(ミラーはビール名であるのに)「コーラで乾杯」] (「ゴーストバスターズ」)
- 人名・地名などの表記の誤り [例 Nurhachi(清朝初代皇帝ヌルハチ)を「ヌハチ」] (「インディー・ジョーンズ魔宮の伝説」)
- 修飾語などの誤解を招くような語順 [例 Lector's fourth victim. The rich one. The only one that survived. 「レクターの4人目の犠牲者 大富豪で生き残った唯一の犠牲者」犠牲者は全部で4人だが、語順のせいで、大富豪で生き残ったのは一人で他にも犠牲者がいるような誤解を与える] (「ハンニバル」)
- slang や swear word の不適切な訳 [例 Fuck you! 「ファック野郎!」] (多作品に頻出)
- irony、humor などの微妙なニュアンスの欠如 [例 英国映画などの irony に満ちた会話がそれらを感じ取れない平板な字幕になっている] (「ブリジット・ジョーンズの日記」)

なお、通常、劇場公開版の場合には、縦10字2行、横13字2行までという字数制限があり、清水、戸田などの字幕翻訳者はこれが字幕を作成するうえの大きなハンディとなっていると字幕批判に反論してきたが、今回のビデオ、DVDでのヘラルド修正字幕例を見てみると、戸田字幕とほぼ同じ字数や戸田字幕より少ない字数で「字幕改善」に成功しているケースが多々あり、映画ファンから指摘された問題点は必ずしも字数制限だけに起因したのではないことも明らかになった。

II. 映画ファンが求める適切な字幕翻訳

「ロード・オブ・ザ・リング」の字幕翻訳では前項で述べたように集中砲火を浴びた戸田字幕であったが、それでは、映画ファンが望む適切な字幕翻訳とは一体どんなものであるのかを次に考えてみたい。

現在、翻訳の適切性を計る尺度として最も広く受け入れられているのは、Nida 等(de Waard and Nida, 1986)が提唱した機能的等価(functional equivalence)と言えよう。

“The most widely accepted frame of reference for translation equivalence now is probably that of ‘function’, which amounts to the claim that a translated text (or element of it) is equivalent to its source language counterpart if it fulfils the same function.” (Gutt, 2000)

Brannen・澤登(1989)はこの機能的等価を「ある言語表現が、特定の場面において、どの

ような発話意図を持って発せられたものであるかを把握して、それを受容言語の中で同じような機能をもった表現に変えていくこと」と説明している。Nida 等の equivalence の概念では機能(function)が形式(form)に当然優先するが、形式・スタイルもできるだけ natural であることを志向している。機能的等価の概念に対しては、「ひとつのテキストが複数の機能を持っている場合にはどのように対応したらよいのか」、「何が等価であるかを判断する基準は相対的なもので主観を免れない」、「等価性が高いほど優れた翻訳とは限らない」(Gutt, ibid.)など様々な批判があることは事実であるが、ブランネン・澤登が機能的等価の実現を目指して作成した翻訳チェックリスト十数項目の中から字幕翻訳に関連すると思われる諸点(表 1)を拾い出してみると、前項 I で整理した「ロード・オブ・ザ・リング」の字幕批判運動やインターネット上で指摘された問題点と非常によく似ていることが分かる。すなわち、ネット上で戸田字幕を批判している人々の間では、Brannen・澤登が言うような「機能的翻訳」に近いものが適切な字幕翻訳であると考えられていると言えよう。

表 1:機能的翻訳のためのチェックリスト (Brannen, 澤登, ibid.より字幕翻訳に関連する問題を拾い出したもの)

- (1)文化面での誤訳はないか?
- (2)訳文に問題点はないか?
 - 訳者は文法上の問題を誤解していないか?
 - 訳者は文脈において意味を取り違えていないか?
 - 訳文が曖昧なために読者が誤解する恐れはないか?
 - 訳文が間違っているとは言えないが、原文に含まれる重要なニュアンスが訳文からは感じられないといったことはないか?
 - 訳者はそれぞれの語句は理解しているようであるが、原文が意図している全体的な意義や前後関係を見落としていないか?
- (3)訳者は原文の表現形式を着実に訳出しているか?
- (4)訳者は含蓄を捕らえているか?
- (5)会話調の文は、翻訳された言語においても自然に聞こえるように修正されているか?

「ロード・オブ・ザ・リング」をめぐる字幕批判は、原作の熱心なファンが英語原作あるいは邦訳を熟知していたため、字幕の誤りや原作の発話意図との乖離に極めて敏感に反応したことが主因となっており、この点は他の映画作品とやや事情が異なる(野口、2002)。しかし、日本は外国文学作品の邦訳に関しては「原文尊重主義が強い」(大澤、1997)と言われていることを考えあわせると、今回のように原作に熟知していなくても、closed caption や DVD の英語字幕でオリジナルをチェックできる機会が増えるにつれ、機能面、形式面の双方で、オリジナルと日本語字幕との間の大きな乖離を嫌う傾向が戸田字幕だけに限らず、字幕全般に対して強まっていくことになるのではないかと推測する。

また、日本では、従来は劇場上映では子供向け映画やアニメ映画にのみ採用されていた日本語吹替えの人气が最近になって高まってきていると言われる。戸田(1997)はこの現象を「若者の活字離れによるもの」と解釈しているが、「字幕と比較すると圧倒的に情報量が多く英語オリジナルにより忠実である」、「分かりやすい」、「人物像や人間関係が確定し

やすい」などの吹替えのメリットが再認識されたためと見る向きもあり(注4)、実際にアクション映画など大人向けの作品も字幕・吹替え版を同時上映する映画館が増加してきている。(複数のスクリーンを持ち同時上映が可能なシネマコンプレックスの増加もその一因と言われている。)さらに、人気作品のビデオ化に際しては、字幕版、吹替え版の双方がリリースされる場合が多くなってきており、DVDでは字幕版、吹替え版を簡単に切り替えられるようになってきている。「世界有数の字幕国(戸田、1997、ibid.)と言われてきた日本でも、今後こうした吹替え版への接触がさらに高まるにつれ、吹替えで実現されている英語オリジナルとの“equivalence”に近いものを字幕にも求める傾向が全般にさらに強まり、字幕に関する様々な慣行(内野、ibid.)も変化を求められるようになるのではないかと考える。映画監督の原田真人も「いまだに戦前に作られた字幕のルールや昔の言葉のタッチに縛られていて、元のセリフの文化性や言い回しを殺している」と指摘し、字幕が変化することを求めている。(注5)

III. 日本語字幕の問題点に関する実例分析

1. 実例分析目的と方法

「ロード・オブ・ザ・リング」の戸田字幕批判は、ややマニアックな原作ファンを中心に展開されたものであったが、本項では、澤登・ブラネンにより指摘された機能的翻訳のためのチェックポイントをベースに筆者が映画字幕用に作成したチェックリスト(表2)に基づき、一般の映画ファンの視点に立って日本語字幕の問題点を系統的に分析してみたい。

表2: 日本語字幕に見られる問題点のチェックリスト

- (a) 文化面の誤解に起因した誤訳箇所
- (b) オリジナル台詞中の発話意図上重要な情報が切り捨てられている箇所
(発話機能に大きな影響を及ぼさないような詳細情報などの切り捨ては除く。また、字幕では切り捨てられていても画面から重要情報が分かる場合も除く)
- (c) オリジナル台詞中の発話意図上重要な情報が脚色され過ぎている箇所
(発話機能に大きな影響を及ぼさない程度の脚色は除く)
- (d) オリジナル台詞中の重要なニュアンスや含蓄が大きく損なわれている箇所
(オリジナル台詞の味わいや人物像の確定が損なわれている箇所などを含む)
- (e) 明らかな意味の取り違いや専門用語の誤訳、文法面での解釈の誤りなどがある箇所
- (f) 不自然な会話文を含む箇所(不自然な中止法、語尾、スラングの不自然な和訳、当該の登場人物や時代に不適当な語調などを含む)

2. 分析対象

分析対象には表3に示したラブ・コメディ3作品を選んだ。これは字幕作成に際し「ロード・オブ・ザ・リング」のような極めて特殊な背景知識を必要とせず、難解なメッセージを解釈する必要もないため、マニア的ではない一般の映画ファンの視点に立って分

析を行なうことができると考えたためである。3 作品すべての日本語字幕を検証すると
なると、膨大な量となるし、映画の長さもそれぞれ異なるため比較も難しいので、それぞれ
最初の 200 枚の字幕についてのみ問題があると思われる箇所を数量的・内容的に分析する。
(長い台詞で 2 枚の字幕になっている箇所は便宜上 1 枚の字幕として扱った。) また、3 作
品の字幕翻訳者はそれぞれ異なるため、戸田字幕と他の翻訳者の字幕との比較検討も行な
ってみたい。さらに、吹替えについても同じチェックリストを使って字幕との比較も試み
たい。

表 3: 本分析の対象作品と字幕・吹替え翻訳者

- *Bridget Jones's Diary* (邦題「ブリジット・ジョーンズの日記」、2001 年、字幕:戸田奈津
子/吹替え:高山美香) (以下 BJD と略す)
- *Subrina* (邦題「麗しのサブリーナ」、1954 年、字幕:清水俊二/吹替え:木原たけし)
(以下 S)
- *Rumaway Bride*(邦題「プリティ・ブライド」、1999 年、字幕:古田由紀子/吹替え:徐賀世
子)(以下 RB)

3. 分析結果

(1) 数量的結果

上記のチェックリストに従って、3 作品の字幕・吹替えのそれぞれの問題箇所を探して
みると下記の通りとなる。

表 4 問題箇所数の比較 (各作品の最初の 200 枚の字幕と相当箇所の吹替え)

問題箇所	BJD 字幕	BJD 吹替え	S 字幕	S 吹替え	RB 字幕	RB 吹替え
(a)文化面での誤解による誤訳箇所	0	0	0	0	0	0
(b)オリジナル台詞中の発話意図上重 要な情報が切り捨てられている箇所	24	0	15	1	18	3
(c)オリジナル台詞中の発話意図上重 要な情報が脚色され過ぎている箇所	5	2	7	4	10	1
(d)重要なニュアンスや含蓄が大きく 損なわれている箇所	6	2	1	0	5	2
(e)明らかな誤訳(意味、文法など)	4	0	1	3	7	1
(f)不自然な会話文を含む箇所 (不自然な中止法、スラングなど)	12	0	9	3	9	1
合計	51	4	33	11	49	8

「ロード・オブ・ザ・リング」の字幕への修正要求は三百数十箇所だったが、上記 3

作品の字幕でも、冒頭 200 字幕（全体の 5 分の 1 程度）のみで、すでにかかなりの数の問題箇所があった。

また、最も問題箇所が多かったのは「重要情報の切り捨て」に関するものであるが、字幕 200 枚と相当箇所の吹替えの情報量を字数で比べると、吹替えは BJD で 1474 字分、S で 1099 字分、RB で 1299 字分も字幕より情報が多くなっており、字幕では字数制限上、重要情報でも切り捨てざるを得ない場合が多いことがうかがわれる。ただし、「ロード・オブ・ザ・リング」の修正字幕でも、戸田字幕と同じ字数あるいは少ない字数で「改善」できたケースが多かったので、次項(2)ではそうした修正案も提示したい。

「～を」、「～に」などで終わる中止法は会話文としては不自然だが、字数を少なくするには便利のため、3 人の字幕翻訳者ともこれを多用していることが分った。また、1954 年製作の“Sabrina”のオリジナルには他 2 作品と比べてスラングの登場頻度が極めて少ないため、スラング関連の問題はほとんど見られなかった。

明らかな誤訳は、戸田字幕だけではなく古田にもかなりの数が見られたが、清水の場合にはその数が極めて少なかった。また、文化面での誤解(a)は、3 作品とも特殊な文化的背景知識を必要とするものではなかったため、冒頭 200 字幕においては見られなかった。

吹替えは、実際に俳優が演じるための台本であるから、脚色も相当あるのではないかと想定していたが、これら 3 作品について見る限り、“functional equivalence”の実現度が字幕に比べてずっと高く、過度の脚色やニュアンス・含蓄面での問題も少なかった。

(2)各作品の項目別問題字幕例

次に各作品別に、表 4 に指摘した箇所に見られる問題点(b)～(f)に関するいくつかを具体的に検討するとともに、字数制限(横書き 13x2=26 字)内で当該の問題をできるだけ解消した修正字幕も提案してみたい。(なお、ここに掲載した字幕・吹替えは DVD 版のもので、字数制限は劇場公開用よりやや緩やかであるため、26 字を越えるものも含まれている。)

(i)*Bridget Jones's Diary*

この映画は英国の 30 代独身キャリアウーマンを描いた日記形式の Helen Fielding の人気小説であり、英国風の皮肉や irony などがオリジナルには散りばめられている。キャリア志向ながら結婚も望む主人公や独善的な母親の性格を示す象徴的な台詞も多数出てくるが、下記(b)～(f)に見られる問題点はこうしたオリジナルの本質や魅力を損なっている。

(b) オリジナル台詞中の発話意図上重要な情報が切り捨てられている箇所

o Mum: His wife was Japanese, very cruel race.

(字幕) 奥さんは日本人(7 字)

(吹替え) 奥さん日本人だったの、残酷な民族

----ブリジッドの母親の独善的で差別的な性格を確定する部分が切り捨てられている。

(筆者修正字幕案) 奥さんは日本人 残酷な民族 (12 字)

o Old woman: You career girls can't put it off forever, you know.

(字幕) 時間切れになるわよ(9 字)

(吹替え) 仕事もいいけど、ずっと先のばしにはできないのよ

---オリジナルでは「仕事ばかりしていると、婚期を逃す」といった警告が発話意図だが、字幕ではそれが伝わらず、何の時間切れなのか曖昧になってしまってい

る。

(筆者修正字幕案) 仕事仕事では婚期を逃すわ(12字)

(c) オリジナル台詞中の発話意図上重要な情報が脚色されすぎている箇所

o Tom: Is that Cleaver chap still as cute as ever?

(字幕) あの色男のクリーヴァー? (12字)

(吹替え) そのクリーヴァーって今もいけてる訳?

----オリジナルの“cute”は「魅力的」といった意味であるから、「色男」は違和感がある。発話意図も字幕にあるようなただの確認ではない。

(筆者修正字幕案) クリーヴァーって今も魅力的? (14字)

(d) 重要なニュアンスや含蓄が大きく損なわれている箇所

o Jude: Am I too ready? Am I codependent?

(字幕) 私が要求しすぎなの? (10字)

(吹替え) あたしって共依存症?

---インテリ女性 Jude は“codependent”という心理学用語を使っているが、話の内容は稚拙であるという落差がユーモラスな所だが、字幕にはその点が反映されていない。

(筆者修正字幕案) 私 共依存症かしら? (9字)

o Bridget: Appalled by management's blatantly size-ist attitude to skirt.

(字幕) スカート丈に対する以上なまでのこだわり(19字)

(吹替え) 管理職のスカート丈差別主義にはへきへきします

----“size-ist”は“sexist”(性差別主義者)をもじった表現であるが、字幕ではそのニュアンスは全く出していない。Bridget は上司でもある Daniel に渡り合おうして背伸びした言葉遣いをしているが、それが反映されない平板な字幕になっている。

(筆者修正字幕案) スカート丈差別主義には嫌になります (18字)

(e) 明らかな誤訳箇所

o Mark: Mother, I do not need a blind date.

(字幕) 母さん デートなんか (9字)

(吹替え) 母さん、だまってお膳立てなんかしないでよ

---“blind date”とは面識のない男女が第三者の仲介で会うことを意味しており、ここでは新たにデートすることではなく、その日出会うよう仕組まれたことを指している。(同修正字幕案) 出会いのお膳立ては御免だよ (13字)

o Guest list for launch party.

(字幕) ランチ・パーティーの名簿だ (12字)

(吹替え) 出版記念の招待者リストだ

----“lunch”と“launch”を単純に取り違えたミス。実際、パーティーは夜だった。

(同修正字幕案) 出版記念会の客のリストだ (12字)

(f) 不自然な会話文を含む箇所

o Dad: Your mother's trying to fix you up with some divorcee.

(字幕) ママがお前にバツイチ男を (12字)

(吹替え) かあさん、バツイチ男とくっつける気だ

----字幕では「～を」の中止法だが、続く語は受け手が自分で推測しなくてはならない。

(同修正字幕案) ママはお前にバツイチをあてがう気だ (17 字)

o Shazzer: Tell them they can stick fucking Leavis up their fucking asses.

(字幕) 「リーヴァイスなんてケツに突っ込め」と (17 字)

(吹替え) 言ってやんな、「F.R. リーヴァイスなんてクソ食らえ、死んでたって知るものか」

--- 下線部のスラングは悪態をつくことが発話意図であるから、日本語でもこなれた悪態になっていなければ機能しない。

(同修正字幕) 「リーヴァイスなんてクソ食らえ」と (15 字)

(ii) Sabrina

清水 (1992, *ibid*) は「スーパー字幕には時々誤訳があることを頭に入れる必要がある」と述べているが、明らかな誤訳箇所やニュアンスなどが損なわれている箇所は他 2 人の翻訳者に比べて極めて少ない。ただし、情報の切捨てや脚色は同程度行なわれている。

(b) オリジナル台詞の発話意図上重要な情報が切り捨てられている箇所

o Father: Sabrina, you can't go on like this about David all your life.

You understand that? You've got to get over it.

(字幕) そんな事では困る (8 字)

(吹替え) いつまでもデイビッドに夢中なるのはやめなさい。かなわない事なんだ、
そんな事分っているだろう

--- 父親が娘を優しく諭している場面であるが、字幕では独断的な発言となっている。

(筆者修正字幕案) 片思いはおやめ 分るだろ (11 字)

o Father: Oh, I'm not telling you that you have to be a cook as she was or that I want you to marry a chauffeur like me.

(字幕) だが お前にコックになれと言っているんじゃない (22 字)

(吹替え) お母さんのようになれと決して言うつもりはないし運転手と結婚しろとも言わない

--- 結婚相手に言及している点はテーマ上非常に重要だが切り捨てられている。

(筆者修正字幕案) 料理人にならなくてもいい 運転手と結婚しなくてもいい (25 字)

(c) オリジナル台詞の発話意図上重要な情報が脚色され過ぎている箇所

o narrator: ---where classmates voted him the man most likely to leave his alma mater fifty million dollars.

(字幕) 母校は彼の財産に大きな期待をかけています (20 字)

(吹替) クラスメートから最も母校に 5000 万ドルを残してそうな男に選ばれた大物

--- オリジナルでは「学生が選んだ」とあり同級生たちが Linus に対して抱いた印象を示している箇所であり、学校側が寄付を期待している訳ではないので脚色しすぎ。

(筆者修正字幕) 彼なら母校に巨額の寄付をしそうだと同級生も思いました (26 字)

(d) オリジナル台詞のニュアンスや含蓄が大きく損なわれている箇所

o Chef: We must be merciful and execute it quickly like the guillotine. Crack.

(字幕) 死刑を行なうようにすばやく割ります (17 字)

(吹替え) ひと思いにすばやくやってしまうのが慈悲心。つまりギロチンの哲学、バサッ

--- フランス人シェフが料理指導でフランスで発明されたギロチンを引き合いに出している

る点がユーモラスな所だが、字幕での「死刑」という表現ではそれが全く伝わってこない。

(筆者修正字幕案)卵を苦しめないようギロチンの素早さで割ること (22 字)

(e) 不自然な会話文を含む箇所

o Why doesn't she drive her home?

(字幕)彼女は?(4 字)

(吹替え)彼女が送ればいいのに

---中止法疑問文だが、前の台詞(「グレチェンのお母様?」)とつながりにくく不自然。

(筆者修正字幕案)グレチェンが送ればいいのに(13 字)

(f) 明らかな誤訳箇所

o Industrial's 247.63, up a dollar ten.

(字幕)重工業 247.63 1 ドル 10 セント高 (17 字)

(吹替え)産業は 247.63、1 ドル 10 セント高

---Industrial とは Dow Jones Industrial Average を指し、「ダウ工業株平均」の訳が正しく、通称「ダウ平均」。重工業も誤りだが、吹替えの「産業」は意味不明となる重大な誤り。

(筆者修正字幕)ダウ平均は 247.63 1 ドル 10 セント高 (19 字)

(iii)Runaway Bride

結婚式の最中に逃げ出す花嫁とコラムニストをめぐるこの作品の古田字幕では、3 作品の中で最も多くの「明らかな誤り」が見られた。また、「情報の切捨て」、「過度な脚色」、「ニュアンス、含蓄の欠如」、「不自然な会話文」も戸田字幕と同程度見られた。

(b) オリジナル台詞の発話意図上、重要な情報が切り捨てられている箇所

o Ike: Excuse me, excuse me. Uh, you know, I'm thinking of doing an article about limousines. What do you think about people who've never been in one?

(字幕)高級車を持たない人をどう思いますか?(18 字)

(吹替え)ああ、すみません、今取材中なんです、リムジンに乗ったことのない人をどう思います?

---Ike が唐突に歩行者に話しかけるような印象の字幕は受け手を混乱させる。また、「limousine」とは「運転手付きの大型高級乗用車」で、「高級車」では意味がずれる。

(筆者修正字幕案) リムジンに乗ったことのない人どう思うか聞かせて下さい(26 字)

(c) オリジナル台詞の発話意図上、重要な情報を脚色しすぎている箇所

o But how can one blame me when every time I step out my front door, I meet fresh proof that the female archetypes are alive and well---

(字幕)一歩外に出れば誰も逃げられない世にはびこる女という生き物(28 字)

(吹替え)外に出るたび、典型的な女たちの生の証拠を目の当たりにしては、ああ書かざるを得ないのだ

---Ike が「女性批判記事」を書いたという非難に対して反論している箇所であるが、字幕には「反論」という発話意図が反映されていない。

(筆者修正字幕案)典型的な女ばかり目にするのだから ああ書かざるを得ない(26 字)

o Maggy: In other words, Mr. Paxton, I think you are out of the doghouse with Mrs.

Paxton.

(字幕)今度は壊さないでね (9 字)

(吹替え)これでもう奥さんの機嫌も直るでしょう

---“be out of the doghouse with~”は「~との問題が解消する」といった意味であり、
適当な水道栓が見つかったから夫婦喧嘩も収まるだろうと金物屋の Maggy がお客に軽
口を叩いている部分だが、脚色しすぎで、お客に説教をしているような印象を与える。

(筆者修正字幕案)ぴったりのが見つかったから 奥さんとも仲直りね (22 字)

(d) オリジナル台詞の含蓄やニュアンスが大きく損なわれている箇所

o Maggy: ---which is understandable because with a man-eater like me on the loose
who has time to check facts?

(字幕)事実を確認する時間がないのでしょうか?(19 字)

(吹替え)まあ、私みたいな獣が野放しになっていたら、ゆっくり取材なんてできないでし
ょう

---Maggy が Ike に“man-eater”と書かれたことに対する抗議文の中で皮肉を込めてい
る箇所だが、字幕では単なる質問となっており皮肉のニュアンスは完全に失われている。

(筆者修正字幕案)私みたいな男喰いが野放しでは事実確認もできませんよね(26 字)

o Ike: If you want to leave me a fax, buy me a fax machine.

(字幕)ファックスはありません (11 字)

(吹替え)ファックスしたい方、私にファックスを買って下さい

---留守電に吹き込まれたユーモラスなメッセージだが、面白みのない字幕になっている。

(筆者修正字幕案)ファックスしたいなら ないので買って下さい(20 字)

(e) 不自然な会話文を含む箇所

o I'm gonna put in a good word for you.

(字幕)君の昇進を (5 字)

(吹替え)君のこと、よく言っておくよ

---字幕では中止法が使われているが、「~を」のあとに何が続くのか推測するのが困難。

(筆者修正字幕案)君のこと推薦しとくよ (9 字)

(f) 明らかな誤訳箇所

o I'm doing a photo spread for G.Q. by the conveyor belt.

(字幕)印刷室で待ってる (8 字)

(吹替え)今日ファッション雑誌 C.Q.のスチールどりをやってる

---“conveyor belt”は印刷室ではなく、撮影現場を指していることが画面からも分る。

(筆者修正字幕案)ファッション雑誌の撮影現場で待ってる(18 字)

VI. 終わりに---日本語字幕の行方

映画専門誌「プレミアム日本版」の Gregory Starr 編集長は、日本語字幕に関して「字
幕で読んでいる言葉はキャラクターが発している言葉に忠実なのか？逐語的な翻訳でない
にしても、その精神を伝えているのか？字幕を作りだすシステムはその重要性にふさわし

いプロ意識と性能を備えているのか？」(注6)という3つの疑問を投げかけているが、以上本稿で見てきた限りは、これら3点のいずれに関しても問題があるのが日本語字幕の現状と言えよう。本稿での分析については、「分析のベースとした“functional equivalence”の判断に際して主観的要素を免れない」、「分析対象も3作品(600字幕)と少ない」等、さらなる検討を要する点はあるものの、現行の日本語字幕に伴う問題とそれに対する映画ファンの不満ならびにその解決方法がある程度浮き彫りにすることができたものとする。清水は「字幕は映画鑑賞のための補助工作」と述べているが、映画鑑賞者側が求める補助工作の中味はメディアや上映形態などの変化に伴い変わりつつある。字幕翻訳者はこの点を認識して、従来からの慣行や翻訳者本人の主観に基づく「分り易さ」に縛られることなく英語オリジナルに一層軸足を置いた字幕作りを心がける必要があるのではないかと考える。

(注1)筆者はTHE JASEC BULLETIN 第10巻第1号(2001)に「洋画の日本語字幕に見るコミュニケーション法」と題した論文を掲載したが、本稿はその続篇として執筆した。

(注2)同サイトは (<http://miyako.cool.ne.jp/LTOR/think/jimaku.html>) で現在も活動中。

(注3)週刊文春、週刊読売、日経流通新聞、週刊ダイヤモンド等で報道された。

(注4)2002年4月18日付け asahi.com 「吹替え洋画増殖中」などで指摘されている。

(注5)原田真人は、かつて Kubric 監督の“Full Metal Jacket”(1987)の字幕翻訳を降ろされた戸田に代わって同作品の字幕作成に携わったという経緯を持つ。

(注6)「プレミアム日本版 2003年4月号」(アセット婦人画報社)の編集長巻頭言。

(参考文献)

- Brannen, N., 澤登春仁(1989) 「コミュニケーションとしての翻訳---機能的翻訳のすすめ」、バベル・プレス
- Gutt, Ernst-August(2000), Translation and Relevance---Cognition and Context, St.Jerome
- 野口悠紀雄(2002年6月8日) 野口悠紀雄 Online 「超整理日記」---ネット上の字幕改善運動 (<http://www.noguchi.co.jp/archive/diary/02608.html>)
- 大澤吉博(1997) 正しい翻訳とは(「翻訳の方法」川本皓嗣・井上健一編)、東京大学出版会
- 清水俊二(1992) 「映画字幕は翻訳ではない」、早川書房
- 戸田奈津子 (1997) 「字幕の中に人生」、白水社
- 内野泰子(2001) (注1に記した拙稿)
- de Waard, Jan and Nida, Eugene A. (1986) From one Language to Another: Functional Equivalence in Bible Translating, Nelson